

# 自由律俳句協会ニュースレター

発行：自由律俳句協会

## 自由律俳句協会が設立されました。

※ 自由律俳句協会設立総会の議事録は別紙資料をご覧ください

### ◆ 自由律俳句協会発足の御挨拶 自由律俳句協会 会長 佐瀬 広隆

自由律俳句協会準備会から発起人会総会をへて自由律俳句協会が誕生しました。「自由律句のひろば」（2011年～2016年）の志は大きなものでした。その志は、大切なものと思います。その志の頓挫を良しとしない仲間、新たに協会を立ち上げようと有志が集まりました。混沌の中での小さな一歩です。

「協会」は結社ではないので、結社、グループ、及び個人がすることと同じでは意味がありません。話し合い、以下の協会の有り方で一致しました。

- 開かれた組織につとめる。
- 異論は、排除をせず異論として尊重し、両論を維持、一致したところで決定する。
- 結社と協会、グループ、及び個人は競合するのではなく、協会はサポートの立場を貫き、できる支援を提供する実務部隊。
- 「協会」が長く続くこと
- 各部から、この1年の活動を提案（総会で報告後承認）。それにしたがって実行委員会形式で実行する。

協会は横の繋がりが大切です。地方におられる会員の方々を核とし、小生自身は非力ですが、皆で協力し合い補う合うことで、種々の困難を解決することができると思います。要望、相談、些細なことでも何かあればお知らせください。ご協力させていただきます。新たに出発した自由律俳句協会を宜しくお願い致します。

### ◆ 今なぜ協会設立が必要なのか 自由律俳句協会 副会長 中塚 唯人

昨今、定型人の俳句のユネスコ無形文化遺産登録を目指す動きが起きています。それに対して自由律界には協会すらありません。その事は何も出来ないということです。若い人と話していると、自由律俳句には興味があるが、自由律俳句とはなんぞやとか、作りたくても教材がないためどう作ったら良いのか、あるいは何処へ行ったら

出会えるかの質問が相変わらず飛び出します。今や自由律俳句は絶滅危惧種と言っても過言ではありません。今こそ自由律界すべてを統合する機関が必要です。結社や個人を超越した、むしろそれらを束ねる協会です。すべての自由律人の意見を吸収し、物言う代表機関です。この一致団結の上に復権がありえます。大義のために小義を捨て、ここに新たに自由律俳句の道を目指そうではありませんか。

◆**事務局 白松 いちろう** 自由律俳句人として、協会の設立は永年の悲願でした。やっと生まれたこの自由律俳句協会の命を燃やし続ける努力を尽くしたいと思えます。皆さまのご意見を繋ぎとめて参ります。ご支援・ご協力をよろしくお願いします。

◆**会計 平岡 久美子** 自由律俳句協会の船出を祝います。会員の皆様と共にわくわくしながら進んでいきたいと思えます。

◆**企画・広報 新山 賢治** 内在律のおもむくままに素直にあるためには、見えない軋轢と圧力を撥ね除ける覚悟が必要だと思えます。腹をくくり「自由」を目指します。

◆**企画・広報 そねだ ゆ** 自由律俳句がパツとしないのは、志す者が話し合いをして、意思をまとめることができないのが原因です。仏の国是の自由・平等・博愛をモットーとして、(五箇条の御誓文)のように、万事公論にて決すべしと思えます。

◆**企画・広報 寺田 和可** 会員の誰もが提案し、同志を募って、社会に向けた活動ができる。そんな組織を目指したい。船出のエンジンは非力でも、そこはハイブリッドで、帆も備え、風の声を聴けば、前へ進めるのでは。企画・情報お待ちしております！

◆**企画・広報 野谷 真治** 自由律俳句協会が総会を経て、設立され、微力ながら、参加しました。総会でも、自由律俳句に関する、様々な提案がありました。自由律俳句の協会が存在すること、それを大切にしたいと思えます。

◆**企画・広報 吉本 知裕** 「これは果たして俳句といえるのか？」そんな悩みと向き合いながら、時折思い出したように句作をしています。協会という場を通して自由律俳句の魅力を多くの人々（特に若い世代）に伝えられるよう、頑張ります！

**協会では、「地域連携部」を設け地域の連携を強化します。「地域連携部」の要となつてくださる方を広く募っていきます。ご協力よろしくお願いします。**

◆**地域連携部 高村 昌慶** 「自由律俳句協会」が立ち上がったことを心から嬉しく思えます。明治30年に創刊された「ほととぎす」が廃刊となりますがすぐに「ホトトギス」と名を変えて復活、現在に至っていることを思いあわせています。また、明治43年、河東碧梧桐が三千里の旅で付けて回った「新傾向俳句」の火が瞬く間に全国に燃え広がり、若い俳人を沸き上がらせたことを思い起こしています。これからが勝負です。二度と前轍は踏まないよう皆で結束し頑張らしましょう。

◆**地域連携部 富永 順子** 一度消えた火を再び熾すことの困難を乗り越えられた発起人の皆様には感謝申し上げます。私のような者に何が出来るか分かりませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### ◆ 会員の皆様からの声(寄せられた葉書より)

- **(田中陽)** ニュースレターに「口語俳句作品大賞」の案内をご掲載いただき誠にありがとうございます。おかげで同賞には113編の作品が集まり、目下選考中にて、11月3日には最初の作品大賞作家が生まれることとなります。今後ともよろしく申し上げます。  
「口語俳句振興会」との提携を期待します。口語俳句は有季定型(文語旧かな俳句)に対する概念であり、自由律、新興俳句、前衛・社会性俳句等々を統括した概念であります。僕は「真の現代俳句」と呼んでいます。
- **(金澤ひろあき)** 私は「口語俳句振興会」に加わっていますので、「口語俳句振興会」との連携ができれば嬉しいです。なぜなら、「口語作品」を近代に入り始めて書いたのが自由律俳句だからです。
- **(無一)** 自由律のみならず俳句そのものが危うい事は感じておりますが、あせることはないと思います。「口語俳句振興会」との連携、積極的に取り組むべきです。
- **(部屋慈音)** 俳句というカテゴリーからの脱却を望みます。俳句という名称を残すと俳句の一端と見なされつづけることになます。その比較の対象になりつづけて、巨大な組織と歴史を有する俳句と無意味な対比をされつづけます。全く新しい短詩文学としてスタートさせてほしいと思います。日本短詩文学協会とか日本自由律短詩文学協会という包容力のある名称にし、自由律俳句、川柳、詩、英語俳句を広く受け入れる組織であってほしいと思います。
- **(富永鳩山)** 結社は大切です。しかし全国的に高齢化が加速しています。協会を構築して自由律を全国に発信する必要を痛感しています、短詩型文学そのものが若い人の興味の埒外にあります。残念です。少し明るいニュースは「尾崎放哉賞」と「山頭火ふるさと館」の「自由律俳句大賞」です。これを結ぶ協会を！
- **(伊藤完吾)** 自由律俳句の名が一般社会にも認められ数多くの団体結社が出来て活躍の場が広がることは必要なことですが「協会」そして各々の成立の歴史や主張があるのでしょうからお互い「ゆるやかな結束」で交流した方がよろしいかと思えます。そしてむしろ定型俳句団体や企業との接触や交流を密にして行くべきでしょう

各結社・グループの活動を社会に広報していきます。ご協力ください。

## 木村緑平顕彰会のご案内

木村緑平顕彰会へお誘いしたいと思えます。会は、木村緑平句集出版をてがけ、今後子供たちへ自由律俳句の普及をはかろうとしています。皆様に会の存在を知って頂くと同時にご協力頂けるよう、会のご案内をさせていただきます。

宜しく願い申し上げます。

### <木村緑平プロフィール>

木村緑平は層雲の同人、「上手な空虚な句より下手な真実の句を作る」ことを願い、自由律俳句の道をこつこつと歩みつづけました。

明治21年10月福岡県三潴郡浜武村（現柳川市）に生まれ、長崎医専（現長崎大学医学部）卒業後、三井三池炭鉱病院に就職。大正3年層雲に入門。大牟田時代、種田山頭火と知り合い、以後緑平は物心共に山頭火を支え続けました。「緑平こそ友達を超える友達であり、緑平なくして山頭火を考えることはできない。（茶楽）」の層雲人の言葉もあります。

逢うてうれしいボタ山の月がある 山頭火

時雨るる旅のおもたくなつた日記おいてゆく 緑平

緑平は雀の句ばかりを送り師井泉水をこまらせました。雀の緑平といわれた所以です。

雀のことまで気にして貧乏している 緑平

おくやみにきた雀の寒いはだして 井泉水

緑平の友情

益雄の片身のフンドシでこの春息災

妻のみとり

春の白い雲匙で食べさせている

ゆまりさせてから二人で見る月が満月

### <木村緑平顕彰会の会則抜粋>

（目的）本会は郷土が生んだ優れた層雲派の俳人、木村緑平の句とゆたかな人柄を地域にひろめることを目的とする。

（事業）①緑平句碑祭（10月22日）②緑平の作品と人間像を紹介するパンフレットの作成③その他、緑平に関わる事業

（会計）本会の会費は年額1、000円とし、毎年10月22日までに納入するものとする。

### <連絡>

〒832-0006 福岡県柳川市東蒲池575 荻島方 木村緑平顕彰会

郵便振替口座 01790-4-65581 木村緑平顕彰会 （記：佐瀬広隆）

## 文学フリーマーケット出店のお知らせ

「海紅」では11月25日（日）の11時から17時まで、東京流通センター第二会場（東京モノレール流通センター駅前）の「文学フリーマーケット」に今年の五月に続き出店します。当日の会場ブースには海紅社句会の若手が交代で張りつきます。お時間のある方は是非足をお運びになりお立ち寄り下さい。自由律関係ではこの出店が初めてですが、自由律俳句はここにありとの意気を示し、今後、ほかの結社や協会でも出店し盛り上げていけたらと思っています。（記：中塚唯人）

## 山頭火ふるさと館から投句のお願い

山口県防府市の山頭火ふるさと館では第一回自由律俳句大会において自由律俳句を募集しています。◇締め切りは12月31日 ◇一人未発表句6句まで ◇投句料は無料です。住所・氏名・年齢を記入の上 下記まで投句してください郵送、メールでも投句は可能です

◇〒747-0032 防府市宮市町5-13 山頭火ふるさと館

TEL0835-28-3107 FAX0835-28-3113 mail info@hofu-santoka.jp

詳細はホームページをご覧ください。hofu-santoka.jp/ (記:富永順子)

## 第二回尾崎放哉賞のご案内

「咳をしても一人」「こんなよい月を一人で見て寝る」等、自由律俳句の名作を残した尾崎放哉。「尾崎放哉賞」は、小豆島の俳人、故井上泰好氏の献身的な努力により放哉を偲ぶとともに百余年の歴史ある自由律俳句の魅力をより広め、多くの方々に親しんでいただくことを目的として創設されたもので、その志を「青穂」が引き継ぎ、自由律俳句を公募し「青穂」の大会で表彰を行うものです。どうぞふるってご応募ください。お待ちしております。(「青穂」代表 小山貴子/ 実行委員長 きむらけんじ/ 大会事務局長 西村勝)

◇応募締め切り 2018年11月30日(金) 必着 ◇投句料 二句一組で2,000円(何組でも可/郵便小為替もしくは現金書留) ※《高校生部》は無料(ただし二句まで) ◇応募方法 応募用紙もしくは原稿用紙にてお送りください。

◇送付先: 〒825-0005 福岡県 田川市 糺 1908-6 高木 架京 宛

## 第21回自由律俳句フォーラムのお知らせ

11月23日(金・祝日)に開催される自由律俳句フォーラムに86句が寄せられました。当日はいつもの通り投句者全員で互選をし、最高得点句は大賞10,000円、2位5,000円、3位3,000円、その他2名に2,000円を贈呈します。その後開く勉強会のテーマは「尾崎放哉の魅力」です。

自由闊達な意見交換の句会へのご来場をお待ちしています。

1. 日時:平成30年11月23日(金)午後1時半より5時まで
2. 会場:江東区芭蕉記念館・分館(必要の方には地図を送ります)

〒135-0003 東京都江東区常盤1-1-3 Tel:03-3631-1448

地下鉄大江戸線「森下駅」A1出口より徒歩10分

東京メトロ半蔵門線「清澄白河駅」A1出口より徒歩7分

4. 参加費：1,000 円（今回も投句者は無料）

郵便振替口座 00170-6-38652 海紅社宛てご送金ください。

主催：東京自由律俳句会、プロデュース「海紅若手メンバー」

## 「結社・グループ一覧表」作成にご協力ください。

「自由律」の活動を社会に伝える基礎になる資料として、「結社・グループ一覧表」を作成します。まず、ホームページに掲載し、各地の活動を報道機関などの広報する助けとしたいと考えています。結社・グループの代表の皆さん、同封の情報用紙に記載の上、ご返信ください。

## 自由律俳句協会 ホームページをオープンしました。



<https://www.自由律.com/>

まだ、未整理な状態ですが、ここに来れば、自由律俳句についての活動の様子が一望できるように成長をめざします。各地の結社・グループ、さらに個人のサイトともリンクを張っているようにしてまいります。スマートフォン画面にも対応しております。

## 新たに会員になれる方を募ります！

「自由律」の活動を文学史に深く刻むために、主張の違いを乗り越えて「ゆるやかな結束」を呼びかけ新たな会員を募ります。

◆年会費 会費は年額個人 3,000 円 結社など賛助会員 3,000 円です。なお、学生会員は 1,000 円です。

### ◆申込先

〒270-2329 千葉県印西市滝野 2-6-16 白松いちろう方 自由律俳句協会事務局

協会を運営するために、以下の口座に会費納入を何卒よろしくお願ひします。

郵便振込口座 口座記号 00180-9-417884 加入者名「自由律俳句協会」

ゆうちょ銀行 記号 10050 記号 03963121 自由律俳句協会

※ゆうちょ銀行から振り込まれる場合は振込料が無料になります

ニュースレター、メールでの配信を希望される方は以下のアドレスまで御連絡ください。

経費節減のため、メール配信を選ばれることをお願ひします。

[Jiyurituhaiku@gmail.com](mailto:Jiyurituhaiku@gmail.com)